

Requested Patent: JP2003098967A

Title:

SPECIMEN CONTAINER DISCRIMINATION LABEL CONSIDERING PRIVACY
PROTECTION ;

Abstracted Patent: JP2003098967 ;

Publication Date: 2003-04-04 ;

Inventor(s): KAIZAKI KATSURO ;

Applicant(s): SRL INC ;

Application Number: JP20010293349 20010926 ;

Priority Number(s): JP20010293349 20010926 ;

IPC Classification: G09F3/02; G01N1/00; G06K7/00; G09F3/00; G09F3/10 ;

Equivalents: ;

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To solve such a problem that a specimen discrimination label stuck to a specimen container in which various specimens picked up from a human body or the like are stored and preserved for examination and analysis is required to be able to give privacy protection in the aspect of ethics though its narrow display area has to be effectively used.

SOLUTION: The label which has discrimination information related to a specimen added and is to be stuck to the specimen container is constituted of at least three areas, and the first area is an anonymous information display part, and the second area is a bar code recognition part, and the third area is a personal information display part. The first and second areas can be stuck to the container while the third area can be detached and removed from the container with the label stuck when necessary, and thus not only personal identification of a provider is secured at the time of picking up the specimen but also his or her privacy can be easily and surely protected.

(43)公開日 平成15年4月4日(2003.4.4)

(51)Int.Cl.	識別記号	F I	テ-リ-ト*(参考)
G 0 9 F 3/02		G 0 9 F 3/02	N 2 G 0 5 2
G 0 1 N 1/00	1 0 1	G 0 1 N 1/00	1 0 1 H 5 B 0 7 2
G 0 6 K 7/00		G 0 6 K 7/00	U
G 0 9 F 3/00		G 0 9 F 3/00	M
			S

審査請求 未請求 請求項の数17 OL (全 12 頁) 最終頁に続く

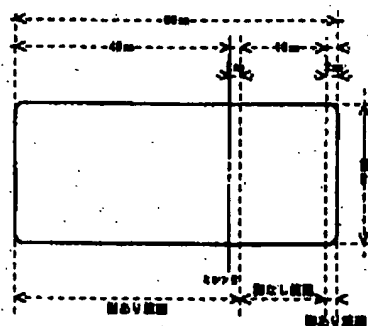
(21)出願番号	特願2001-293349(P2001-293349)	(71)出願人	390037006 株式会社エスアールエル 東京都立川市曙町二丁目41番19号
(22)出願日	平成13年9月26日(2001.9.26)	(72)発明者	甲斐崎 克郎 東京都立川市曙町二丁目41番19号 株式会 社エスアールエル内
		(74)代理人	100097582 弁理士 水野 昭宣 Fターム(参考) 2C052 AA30 DA02 DA12 HB04 5B072 AA00 BB06 CC21 CC24

(54)【発明の名称】 プライバシー保護対応検体容器識別ラベル

(57) 【要約】

【課題】 人体等から採取された各種試料等を検査分析等のために収容保管する検体容器に貼付されて利用される検体識別ラベルは、狭い表示面積を有効利用しなければならないが、倫理上の問題からプライバシー保護を図ることができるものが必要とされている。

【解決手段】 検体試料に関する識別情報が付され且つ検体容器貼付用のラベルにおいて、少なくとも3つの領域から構成し、第一の領域は匿名化情報表示部、第二の領域はバーコード認識部、第三の領域は個人情報表示部分とし、第一と第二の領域は容器上に固着可能とされ、一方第三の領域は、必要時に、ラベル貼付容器から分離除去可能にすることにより、試料採取時には提供者の個人識別が担保されていると共にプライバシー保護を簡易に且つ確実に図ることが可能である。



1 (a)

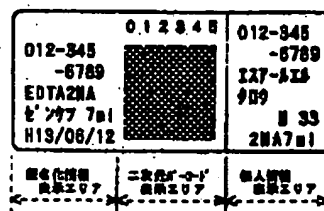


圖 1 (b)

までの流れを説明する一例を示す。

【図3】 本発明に係るプライバシー保護対応検体容器識別ラベルの一実施例を示す平面図である。(a) は、当該ラベルの裏面を表し、(b) は、当該ラベルの各種情報表示側（表面）の形態を示している。

【図4】 図3に例示された識別ラベルの一実施例を採血管に適用し、その貼り付けの様子、院内業務中での様子、さらには外部検査機関（院外）への持ち出しに至るまでの流れを説明する一例を示す。

【図1】

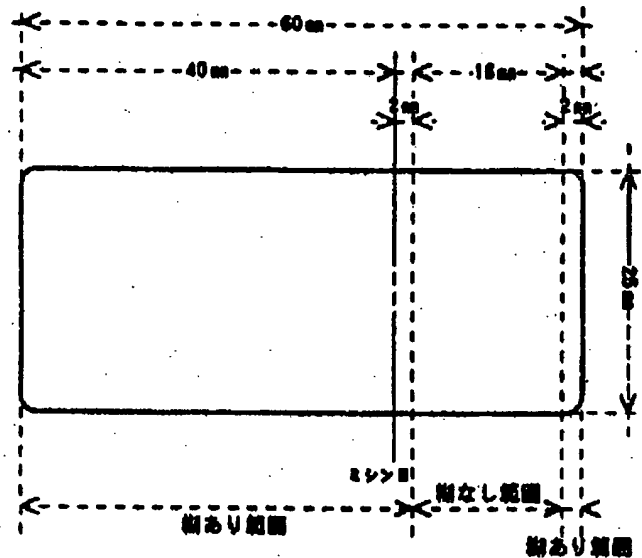


図1(a)

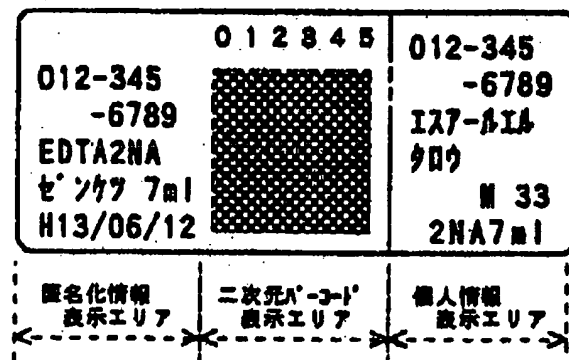


図1(b)

【図2】

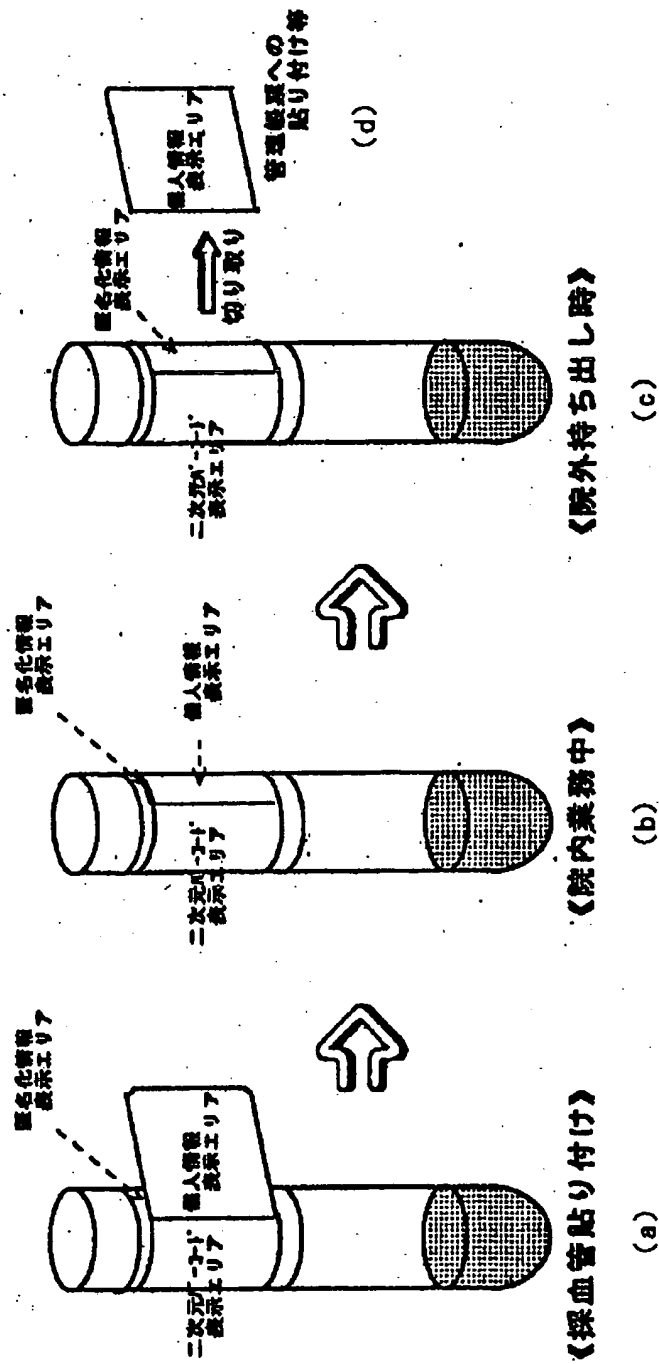


図 2

【図3】

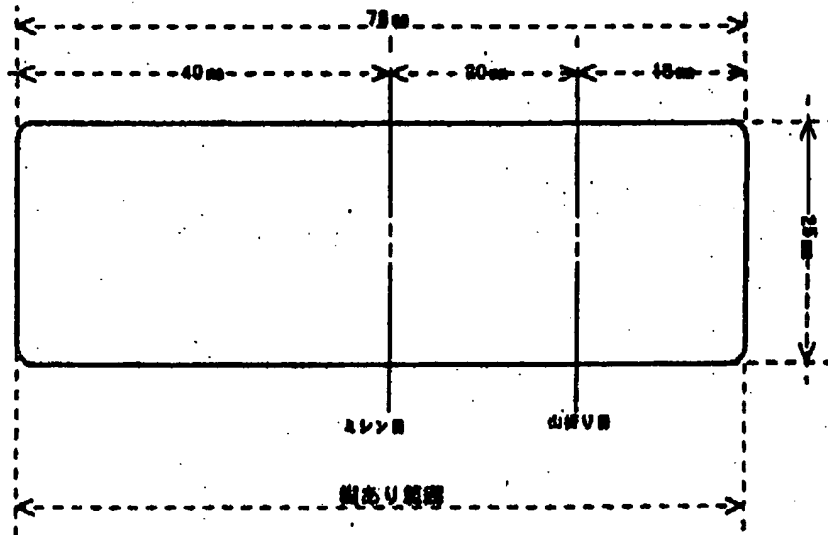


図 3 (a)

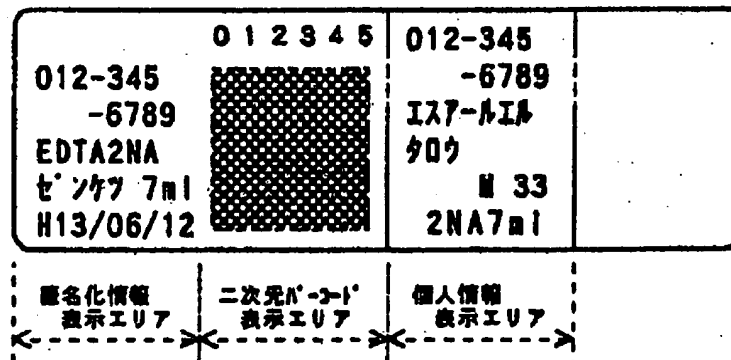


図 3 (b)

【図4】

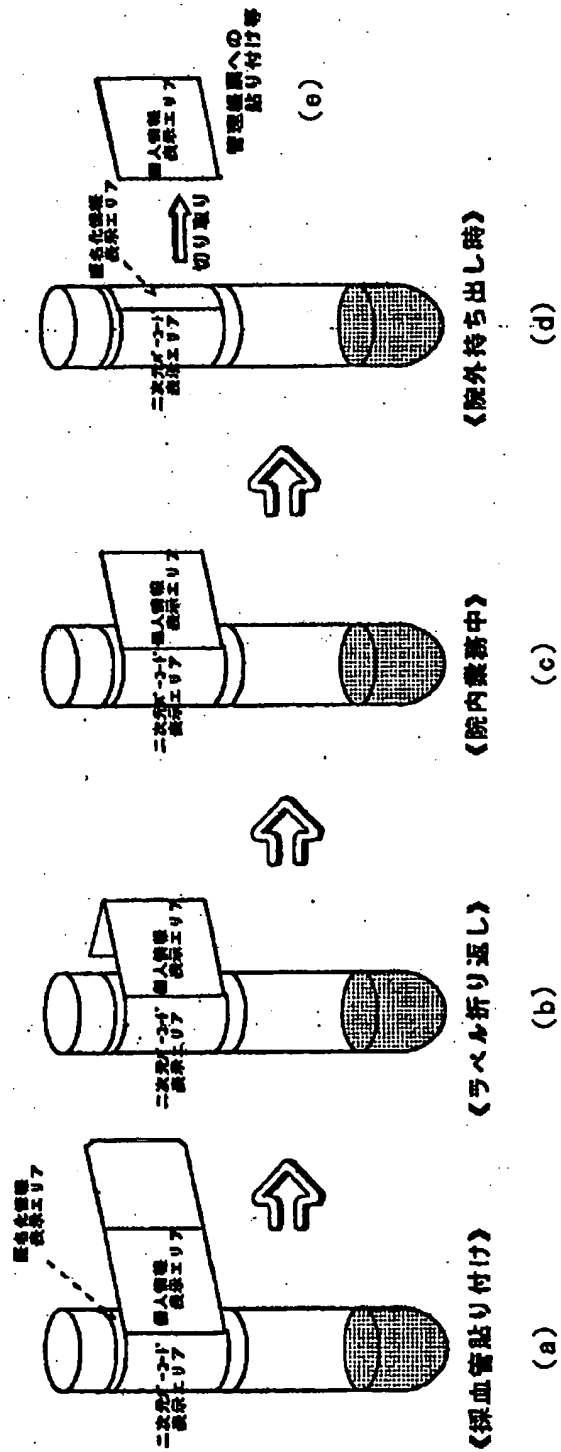


図 4

フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷

G09F 3/10

識別記号

F I

G09F 3/10

7-711-D (参考)

B

【特許請求の範囲】

【請求項1】 識別情報が付され且つ検体容器貼付用のラベルにおいて、該ラベルは少なくとも3つの領域から構成され、(1) 該ラベルの第一の領域は、検体試料に関する情報のうち匿名化された情報を表示する部分を有するものであり、(2) 該ラベルの第二の領域は、機械読取り可能なバーコード認識部位を有するものであり、(3) 該ラベルの第三の領域は、検体試料に関する情報のうち個人情報を表示する部分を有するものであり、(a) 該ラベルの第一の領域と該ラベルの第二の領域とは互いに隣接して且つ互いに分離しない形態で配置され、(b) 該ラベルの第一の領域と該ラベルの第二の領域とは検体試料採取容器上に固着可能なものとされており、(c) 該ラベルの第三の領域は、ラベル平面上で該ラベルの第一及び第二の領域と一体の形態であるが、必要時に、該ラベルの第一及び第二の領域から分離除去可能にされているものであることを特徴とする該ラベル。

【請求項2】 該ラベルの第一の領域及び第二の領域には検体容器貼付の際検体容器との間で十分な固着を果たす粘着剤が該領域の裏面に付与されているものであるが、該ラベルの第三の領域には、必要時に剥離可能な粘着剤が該領域の裏面に付与されているものであることを特徴とする請求項1記載のラベル。

【請求項3】 該ラベルの第一の領域、第二の領域、そして第三の領域が、ラベル平面上で、該第一の領域、該第二の領域、該第三の領域の順序で配置されていることを特徴とする請求項1又は2記載のラベル。

【請求項4】 該ラベルの第一の領域、第二の領域、そして第三の領域が、ラベル平面上で、該第一の領域、該第二の領域、該第三の領域の順序で配置され、さらに続いて該第三の領域に折り返して付着させることが可能な折り返し領域が設けられていることを特徴とする請求項1～3のいずれか一記載のラベル。

【請求項5】 該ラベルの第一及び第二の領域をなす部分と、該ラベルの第三の領域との間が、ミシン目により取り外し可能に連結されているものであることを特徴とする請求項1～4のいずれか一記載のラベル。

【請求項6】 該ラベルの第三の領域をなす部分と、該ラベルの折り返し領域との間に、山折目が設けられているものであることを特徴とする請求項4又は5記載のラベル。

【請求項7】 台紙上に剥離可能に付着された形態で且つ少なくとも上記第一、第二及び第三の領域の3つの領域を有する形態で提供されていることを特徴とする請求項1～6のいずれか一記載のラベル。

【請求項8】 バーコードが二次元バーコードであることを特徴とする請求項1～7のいずれか一記載のラベル。

【請求項9】 前記ラベルは、さらに、同一の数字及び／又は英数字の組み合わせあるいはその他の識別可能な

符号の同一の組み合わせを、前記第一及び／又は第二の領域と第三の領域とに備えることを特徴とする請求項1～8のいずれか一記載のラベル。

【請求項10】 該容器が、生体検査用試験管であることを特徴とする請求項1～9のいずれか一記載のラベル。

【請求項11】 該ラベルが医療検査用に用いられることを特徴とする請求項1～10のいずれか一記載のラベル。

【請求項12】 請求項1～11のいずれか一に記載のラベルを備えた検体試料採取容器。

【請求項13】 該容器が、生体検査用試験管であることを特徴とする請求項12記載の容器。

【請求項14】 該ラベルの第一及び第二の領域をなす部分が、該容器外周を一周して巻着されていることを特徴とする請求項13記載の容器。

【請求項15】 該ラベルが医療検査用に用いられることを特徴とする請求項12～14のいずれか一記載の容器。

【請求項16】 該ラベルの第三の領域をなす部分が、該容器に圧力感受性粘着剤を用いて接着されていることを特徴とする請求項12～15のいずれか一記載の容器。

【請求項17】 該ラベルの第三の領域をなす部分と該ラベルの折り返し領域とが、該山折目で折り曲げられて互いの裏面が接着せしめられていることを特徴とする請求項12～15のいずれか一記載の容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、容器に付けられるバーコード等の識別情報が付与された識別ラベルであって、特にプライバシー保護を図るのに適したラベル及び該ラベルが付けられた容器、特に、医療分野において、採血、検尿等の生体検査用に用いられる検体容器に関する。

【0002】

【従来の技術】 臨床検査などのための検査用試料は、典型的には医療技術者によって、医療機関において採取され、容器に収容されて、検査する場所に移動、移送又は輸送される。血液のような液体試料は、採血管と称する容器に収容され、検査依頼書（検査依頼シート）と共に検査機関へと運ばれるのが一般的である。当該検査試料が容器内に採取されるあるいは採取されたときは、いつも試料の提供者が適切に識別されていることが非常に重要である。もし、不正確にしか識別していないと、種々の誤診を招来することとなり大問題となる。また、もしその試料を正確に識別していないという恐れが認められたなら、それだけで再度試料を採取し直すことが必要となってしまう。

【0003】 次に、検査機関は、当該検査試料を収めた

容器と、医療機関から受け取った検査依頼シートとを照合し、当該試料に関しその検査依頼シートによって指示された検査を行ない、そして、検査結果を医療機関へと報告する。結果の報告を受け取った病院などの医療機関は、通常は、それぞれ個々の試料容器毎の、それを識別する情報と検査結果とを突き合わせて診断等に利用することとなる。かくして、多数の、検査対象試料と検査対象個人間（例えば採血用試験管と検査依頼シート、さらには試料提供者）で、1対1の対応をとるためには、両者に夫々識別情報を有するラベルを付与することが有益である。しかし、一体ではないこれらに対して別個に（別時間、別人等）、こうしたラベルを付与する場合は、ラベルの貼り間違いあるいは対応付け等の人為的ミスにより、往々にして1対1の対応がとれなくなる恐れがある。例えば血液検査において、一人に対して夫々1対1に対応する採血用試験管と検査依頼表、さらには検査対象者との間に、このような取違いが生じれば、人と検査結果とが一致せず、迅速な対応処置を行なうことができず、あるいは誤処置を行なう可能性もある。

【0004】したがって、医療機関における医療技術者によって検査用試料を採取され、容器に収容される時には、試料提供者が容易に確認できることが重要である。つまり、検査用試料を採取時には、識別ラベル上には、姓名、年齢、性別など容易に各提供者個人を識別できる個人情報が表示され、提供者が確かに対象とする者であることを確認できることが望ましい。特に、医療ミスを避ける上ではこうした個人情報表示がなされることが非常に重要である。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】ところで、ヒト遺伝子解析や生体試料検査により得られる情報は、個人を対象とした特定のな情報を含むものであり、例えばその提供者やその血縁者などの遺伝的素因を明らかにし、その取扱次第によっては、様々な倫理的、法的又は社会的問題を招く可能性があるという側面を持っている。そこで、最近、ヒトの尊厳及び人権に配慮する観点から、十分に個人のプライバシーを保護できる様な方策が強く求められるに至っている（「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（平成13年3月文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）」及び平成13年4月2日付け医政発第390号厚生労働省医政局長通知「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針の施行等について」参照）。

【0006】こうした観点から、検査用試料の採取時や病院などの医療機関内で個人のプライバシー保護に十分に配慮できる場所では、被検者と検査用試料との間でその試料の取り違いミスなどの誤りの発生を起し難く且つその対応関係の保持が十分に確保できる一方で、外部検査機関への持ち出しの際には、検査用試料の匿名化を簡単且つ確実に図ることができるような方策が強く求め

られている。一方、最近では医療において各治療や診断をするにあたり、各種の検査を行ってからというのが実情化していることから、大量の臨床検査試料につき各種の検査を行うことがなされている。したがって、検査用試料につきそれをそれぞれ識別し、医療機関内から外部検査機関への移動、移送又は輸送の際、高い信頼性と操作性の良さが要求される。

【0007】かくして、本発明は、こうした生体検査を行なう医療、保険衛生分野において、採血、検尿等を使用される検体用試験管及び検査依頼シート等に付与するに好適な識別ラベルであって、倫理上の問題に十分対処可能で、プライバシー保護に対応できるラベルを提供することを目的とする。臨床検査用の試料、例えば血液などを収容する容器は、その検査用の試料の量はたかだか5 mL、多くても10 mL程度であることから、その容器の大きさも小さなサイズであり、そこに貼ることのできるラベルの大きさも極めて限られることから、所要の識別情報を記載できる面積も極めて限られたものである。こうしたことから、その狭い可利用領域を有効に利用しつつプライバシー保護に適した検体容器識別ラベルを構成することは、なかなか困難である。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明者等は鋭意研究の結果、検査用試料を採取時には、識別ラベル上には、姓名、年齢、性別など容易に各提供者個人を識別できる個人情報が表示され、提供者が確かに対象とする者であることを確認できる一方で、例えば、個人のプライバシー保護に十分に配慮できる医療機関などの場所から、外部の検査機関などへ移動、移送又は輸送される場合には、検査試料を収めた容器から当該個人情報を表示した部分を取り除いて匿名性を確保できる手法を見出して、本発明を完成した。

【0009】すなわち、本発明は、

〔1〕 識別情報が付され且つ検体容器貼付用のラベルにおいて、該ラベルは少なくとも3つの領域から構成され、(1) 該ラベルの第一の領域は、検体試料に関する情報のうち匿名化された情報を表示する部分を有するものであり、(2) 該ラベルの第二の領域は、機械読取り可能なバーコード認識部位を有するものであり、(3) 該ラベルの第三の領域は、検体試料に関する情報のうち個人情報を表示する部分を有するものであり、(a) 該ラベルの第一の領域と該ラベルの第二の領域とは互いに隣接して且つ互いに分離しない形態で配置され、(b) 該ラベルの第一の領域と該ラベルの第二の領域とは検体試料採取容器上に固着可能なものとされており、(c) 該ラベルの第三の領域は、ラベル平面上で該ラベルの第一及び第二の領域と一体の形態であるが、必要時に、該ラベルの第一及び第二の領域から分離除去可能にされているものであることを特徴とする該ラベル；

【0010】〔2〕 該ラベルの第一の領域及び第二の

領域には検体容器貼付の際検体容器との間で十分な固着を果たす粘着剤が該領域の裏面に付与されているものであるが、該ラベルの第三の領域には、必要時に剥離可能な粘着剤が該領域の裏面に付与されているものであることを特徴とする上記〔1〕記載のラベル；

〔3〕 該ラベルの第一の領域、第二の領域、そして第三の領域が、ラベル平面上で、該第一の領域、該第二の領域、該第三の領域の順序で配置されていることを特徴とする上記〔1〕又は〔2〕記載のラベル；

〔4〕 該ラベルの第一の領域、第二の領域、そして第三の領域が、ラベル平面上で、該第一の領域、該第二の領域、該第三の領域の順序で配置され、さらに続いて該第三の領域に折り返して付着させることが可能な折り返し領域が設けられていることを特徴とする上記〔1〕～〔3〕のいずれか一記載のラベル；

〔5〕 該ラベルの第一及び第二の領域をなす部分と、該ラベルの第三の領域との間が、ミシン目により取り外し可能に連結されているものであることを特徴とする上記〔1〕～〔4〕のいずれか一記載のラベル；

〔6〕 該ラベルの第三の領域をなす部分と、該ラベルの折り返し領域との間に、山折り目が設けられていることを特徴とする上記〔4〕又は〔5〕記載のラベル；

〔7〕 台紙上に剥離可能に付着された形態で且つ少なくとも上記第一、第二及び第三の領域の3つの領域を有する形態で提供されていることを特徴とする上記〔1〕～〔6〕のいずれか一記載のラベル；

【0011】〔8〕 バーコードが二次元バーコードであることを特徴とする上記〔1〕～〔7〕のいずれか一記載のラベル；

〔9〕 前記ラベルは、さらに、同一の数字及び／又は英数字の組み合わせあるいはその他の識別可能な符号の同一の組み合わせを、前記第一及び／又は第二の領域と第三の領域とに備えることを特徴とする上記〔1〕～〔8〕のいずれか一記載のラベル；

〔10〕 該容器が、生体検査用試験管であることを特徴とする上記〔1〕～〔9〕のいずれか一記載のラベル；

〔11〕 該ラベルが医療検査用に用いられることを特徴とする上記〔1〕～〔10〕のいずれか一記載のラベル；

〔12〕 上記〔1〕～〔11〕のいずれか一に記載のラベルを備えた検体試料採取容器；

【0012】〔13〕 該容器が、生体検査用試験管であることを特徴とする上記〔12〕記載の容器；

〔14〕 該ラベルの第一及び第二の領域をなす部分が、該容器外周を一周して巻着されていることを特徴とする上記〔13〕記載の容器；

〔15〕 該ラベルが医療検査用に用いられることを特徴とする上記〔12〕～〔14〕のいずれか一記載の容器；

〔16〕 該ラベルの第三の領域をなす部分が、該容器に圧力感受性粘着剤を用いて接着されていることを特徴とする上記〔12〕～〔15〕のいずれか一記載の容器；及び

〔17〕 該ラベルの第三の領域をなす部分と該ラベルの折り返し領域とが、該山折り目で折り曲げられて互いの裏面が接着せしめられていることを特徴とする上記〔12〕～〔15〕のいずれか一記載の容器を提供する。

【0013】本発明のその他の目的、特徴、優秀性及びその有する観点は、以下の記載より当業者にとっては明白であろう。しかしながら、以下の記載及び具体的な実施の形態等の記載を含めた本件明細書の記載は本発明の好ましい態様を示すものであり、説明のためにのみ示されているものであることを理解されたい。本明細書に開示した本発明の意図及び範囲内で、種々の変化及び／又は改変（あるいは修飾）をなすことは、以下の記載及び本明細書のその他の部分からの知識により、当業者には容易に明らかであろう。本明細書で引用されている全ての特許文献及び参考文献は、説明の目的で引用されているもので、それらは本明細書の一部としてその内容はここに含めて解釈されるべきものである。

【0014】

【発明の実施の形態】本発明のラベルは、検体試料に関する情報のうち個人情報を表示する部分を該ラベルの貼ってある容器から取り除くことができ、その後、それは検査管理書類（管理帳票）やそれに類するものに添付され得るものである。かくして、本発明のラベルは、倫理上の課題にも容易に且つ確実に、そして効率的に信頼性をもって対処可能な、プライバシー保護に対応できる。本発明のラベルは、さらに、好ましくは、機械読取り可能なバーコード認識部を備えたラベルであり、さらに、本発明のラベルは、容器、患者及び検査書類、検査管理書類の間の直接的な連携を形成することができるものである。

【0015】本発明のラベルは、固着部と切り取り部（分離除去可能部）とを有しており、ラベルの固着部には、検体試料に関する情報のうち匿名化された情報の表示された領域（エリア）、例えば試料提供者を識別するための暗号化された符号が表示されたエリア：〔匿名化情報表示エリア〕と、電子的に情報を処理あるいは管理するのに適した情報の表示された領域（エリア）、例えば機械読取り可能なバーコード認識部位を有するエリア：代表的な例では、〔二次元バーコード表示エリア〕が配置され、ラベルの切り取り部には、検体試料に関する情報のうち、試料提供者の、例えば、姓名、年齢、性別など容易に各提供者個人を識別できる個人情報が表示された領域（エリア）：〔個人情報表示エリア〕が配置されている。また、別の態様の一つとして、該切り取り部は、該〔個人情報表示エリア〕と、その裏面に折り返して付着させることのできる折り返し領域（エリア）：〔折り返しエリア〕が配置されていてよい。こうした場合、該〔個人情報表示エリア〕と〔折り返しエリア〕との間には折り曲げやすいように山折り目が設けられていることができる。バーコード情報は、好ましくは、その試料を

収めた容器に関する情報、実行されるべき検査依頼の内容、及び／又は患者を識別可能にする情報を含んでよい。本発明のラベルは、ラベル平面上に連続して該固着部と該切り取り部を設けることにより、所要の機能を十分に果たす一方で、その構成を単純化し、その製造及び取扱いを簡単且つ安価にすることができている。本発明のラベルは、ラベル平面上に連続して該〔匿名化情報表示エリア〕、該〔二次元バーコード表示エリア〕、及び該〔個人情報表示エリア〕を設けることにより、所要の機能を十分に果たす一方で、その構成を単純化し、その製造及び取扱いを簡単且つ安価にすることができている。

【0016】次に、ラベルの該切り取り部は、最も好ましくは、ユーザーが迅速かつ効率的にラベルから当該切り取り部を切り取って、ラベルの貼付された容器から分離除去して、かつ他の検査管理帳票などの書類にそれを取り付けることを可能とするようにされている。該切り取り部を切り取ったりすることを簡易にできる態様であれば、公知の如何なる手法も適用できるが、代表的な工夫としては、ミシン目を入れたり、切れ込みを入れておくなどが挙げられるが、該切り取り部はそれを取り除く必要があるまでは確実に該固着部（〔匿名化情報表示エリア〕や〔二次元バーコード表示エリア〕の部分）と一緒になっているようにすべきである。ラベルの貼付された容器から一旦分離除去された該切り取り部は、次には管理帳票などの書類に貼り付けることから、こうした書類に貼付した場合には該貼付書類から簡単に剥がれ落ちることがないことが好ましく、公知の如何なる手法をこれに適用してそれを実現してもよい。

【0017】また、一方で、該切り取り部はそれを取り除く必要があるまでは確実に該固着部と一緒になっていることが好ましいので、より安全に取り扱うことが可能なように、例えば容器に一時的に貼付された状態にすることも好ましい。かくして、該切り取り部は、例えばそれを貼付したり剥がしたりすることが繰り返すことができるように、該ラベルの該切り取り部の裏面には、粘着剤が適用され、複数回の着脱が可能にされていてよい。こうしたことに適したものとしては、代表的には、圧力感受性粘着剤として知られたものが挙げられ、例えば、“Post-it”（商標名、3M）などに使用されているものなどが挙げられる。同様に、別の態様の一つにおいて、該切り取り部に〔個人情報表示エリア〕と〔折り返しエリア〕が設けられている場合、それらの裏面も該粘着剤が適用され、複数回の着脱が可能にされていてよく、さらに該切り取り部を切り取った後、それぞれの裏面で接着しているのを一旦剥がして、次に管理帳票などの書類にそれを貼り付けることもできる。この構造のものでは、その粘着面の粘着性能の低下を防止できるという効果も期待できる。

【0018】次にラベルは試料採取手順においては、そ

の使用されている容器上にある。該ラベル上には、試料提供者についての情報で且つ人間がそれを読んで容易に確認及び認識できる個人を特定できる情報が表示されている。同時に、該ラベル上には、バーコードが存在し、より詳細な情報とリンクし且つコンピューターなどと連動しての電氣的情報処理を可能にらしめる機械読み取り可能な情報が表示されている。該バーコードは、人間が読み取り得る情報を保持するものであってよい。また、該バーコードは、好ましくは、それを走査、転送、及び他の媒体へ移動したり、さらにそれを他の媒体に格納することが可能な電氣的情報を保持するものであってよい。試料が採取された時に、そのラベルの切り取り部は除去されて、検査管理書類（管理帳票）に貼り付けられたり、あるいは、試料を入れた容器が部外の機関、例えば外部検査機関に移送されたりする時に、そのラベルの切り取り部は除去されて、検査管理書類（管理帳票）に貼り付けられたりされる。

【0019】本発明に従えば、より好ましい形態では、当該バーコードは、二次元バーコードとすることができ。二次元バーコードとは、高情報量、高密度化が図られたバーコードであり、PDF417、Code 16K、Code 49などのものが開発されており、例えば、特開平09-288114号公報などに開示された利用システムを使用可能にする。本発明では、狭い領域に効率的に情報表示領域を配置可能であり、上記高情報量、高密度化の、二次元バーコードを利用可能であり、それを利用して精密な検体並びにその為の容器の管理などを行うことができる。本発明のより好ましい形態では、(1) ラベルの第一の領域、すなわち、検体試料に関する情報のうち匿名化された情報を表示する部分、(2) ラベルの第二の領域、すなわち、機械読み取り可能なバーコード認識部、そして、(3) ラベルの第三の領域、すなわち、検体試料に関する情報のうち個人情報を表示する部分の全て、すなわち、当該ラベルの三つの領域に同一の数字及び／又は英数字（あるいはその他の識別可能な符号）の組み合わせを付与しておき、同一性を識別する助けとすることができる。

【0020】本発明においては、上記で示した本発明の目的、特徴、優秀性などを満足することのできる、数多くの様々な形態の実施形態が可能であり、本明細書における開示の内容は、本発明の原理を例示するものである点に留意してそれを考慮すべきであり、本明細書で図示された好ましい実施形態に本発明の範囲が限定されたいとの意図があると解すべきではないことは理解されるべきである。以下に図面を掲げ、本発明を具体的に説明するが、この図面は単に本発明の説明のため、その具体的な態様の参考のために提供されているものである。これらの例示は本発明の特定の具体的な態様を説明するためのものであるが、本願で開示する発明の範囲を限定したり、あるいは制限することを表すものではない。本発明では、本明細書の思想に基づく様々な実施形態が可能

であることは理解されるべきである。全て他に詳細に記載するもの以外は、標準的な技術を用いて実施したもの、又は実施することのできるものであり、これは当業者にとり周知で慣用的なものである。

【0021】図1は、本発明に従った、プライバシー保護に対応した検体容器用の識別ラベルの一例である。図1(a)は、当該ラベルの裏面を表し、そこには、代表的なラベルの場合のサイズが図示されているが、そのサイズに限定されず、様々な大きさにすることが可能であり、検体容器のサイズに合わせて適宜適切なサイズとすることが可能である。ところで、検体試料が、例えば血液の場合には、通常、0.5～15.0 mLが採血されるが、その場合、容器としては採血管が使用され、それには、例えば、2 mL採血管、5 mL採血管、7 mL採血管、10 mL採血管などが挙げられる。図1(b)は、当該ラベルの各種情報表示側(表面)の形態を示している。図2は、図1に例示された識別ラベルを採血管に適用して、例えば医療機関(例えば病院など)における検体試料の採取から外部検査機関(病院外)への持ち出しに至るまでの流れを説明する一例を示す。

【0022】図1(a)において、ラベルの左側は、「糊あり範囲」と記された部分に、検体試料採取容器上に当該ラベルを固着できるように、粘着剤が塗布されており、例えば試験管形態の容器に巻着できる(図2(a)参照)。図1(a)のミシン目の右側は、「糊なし範囲」と記された部分と一部の「糊あり範囲」と記された部分とが存在し、検体試料採取容器上に当該ラベルが固着している場合に、当該ミシン目の右側部分が容易に容器上に付着させたり剥がしたりすることができるようになっていることが理解できる(図2(a)(b)(c)参照)。好ましくは、当該ミシン目の右側の部分の「糊あり範囲」に塗布されている粘着剤としては、当該分野で知られたものから選択して使用でき、当該分野では圧力感受性粘着剤(pressure-sensitive adhesives)として知られているものが好適に使用できる。例えば、米国特許明細書第5,989,708号などを参考にすることもできる。

【0023】図1(b)において、「匿名化情報表示エリア」、「二次元バーコード表示エリア」、そして「個人情報表示エリア」が、ラベル平面上に左から右側に順番に配置されている。図1(a)と図1(b)とを対応させてみると理解できるように、ミシン目の左側に「匿名化情報表示エリア」及び「二次元バーコード表示エリア」が配置され、その裏面は、全面が「糊あり範囲」であり、粘着剤が塗布されて容器上に当該ラベル部分を固着できることがわかる。図2(a)を参照すると、採血管に図1に例示された本発明の識別ラベルが貼り付けられた場合のその様子がわかるが、図1及び2に示された本例では、「個人情報表示エリア」は「匿名化情報表示エリア」の上に重なるように着脱自在に貼付できることが理解される(図2(b)も参照)。なお、ラベルの「個人情報

表示エリア」は、ラベルの「匿名化情報表示エリア」及び「二次元バーコード表示エリア」に連なって同じラベル平面上に配置されていること、そして該「個人情報表示エリア」と該「二次元バーコード表示エリア」との境にミシン目が来ることもわかる。

【0024】該ミシン目の右側には、「個人情報表示エリア」が配置され、図2(c)と図2(d)を参照しても理解できるように、必要に応じて、ミシン目を利用して切り取り、「匿名化情報表示エリア」及び「二次元バーコード表示エリア」の着いている検体試料容器から分離できる。該切り離された「個人情報表示エリア」のラベル部分は、管理帳票に貼り付けておいて、外部検査機関から検査結果の報告があった場合など、当該匿名下に得られた結果と個人情報との対応関係を付けるために利用される。図2の例では、「匿名化情報表示エリア」及び「二次元バーコード表示エリア」が、検体試料採取容器である採血管をぐるりと一周取り巻くように貼り付けられている(すなわち、ラベルのサイズが、当該大きさに適合されている)ので、「個人情報表示エリア」部分は、「匿名化情報表示エリア」部分を覆うようにそして着脱可能に配置されていることがわかる。

【0025】かくして、検体試料採取時には、「個人情報表示エリア」部分を容易に読み取ることができ、提供者が確かに対象とする者であることを容易に確認できるが、院外に当該検体試料を持ち出す場合には、「個人情報表示エリア」部分を取り去ることが簡単にでき、さらにその「個人情報表示エリア」部分を管理帳票に貼り付けておいて、正確なデータ管理を図ることが可能である。本発明の識別ラベルによれば、採血管などの比較的そのサイズに制限のあるものに適用できて、しかもプライバシー保護を簡単に且つ確実に図ることが可能である一方、バーコードを利用した正確で信頼がおける、さらに効率的な扱いを可能とする。

【0026】図3は、本発明に従った、プライバシー保護に対応した検体容器用の識別ラベルの一例である。図3(a)は、当該ラベルの裏面を表し、そこには、代表的なラベルの場合のサイズが図示されているが、そのサイズに限定されず、様々な大きさにすることが可能であり、検体容器のサイズに合わせて適宜適切なサイズとすることが可能であることは、上記図1の場合と同様である。図3(b)は、当該ラベルの各種情報表示側(表面)の形態を示している。図4は、図3に例示された識別ラベルを採血管に適用して、例えば医療機関(例えば病院など)における検体試料の採取から外部検査機関(病院外)への持ち出しに至るまでの流れを説明する一例を示す。

【0027】図3(a)においては、図1(a)に示される場合と異なり、ラベルの全面が「糊あり範囲」と記されているように、粘着剤が塗布されている。そのラベルのうち、図示された「ミシン目」より左側の領域が、検体

試料採取容器に貼り付けられて、該容器上に当該ラベルは固着できる（例えば試験管形態の容器に巻着できる：図4(a)参照）。図3(a)のミシン目の右側は、「山折り目」と記された部分が設けられており、図4(b)を参照するとわかるように、ラベルの一部を折り返すことができる。図3(b)において、「匿名化情報表示エリア」、「二次元バーコード表示エリア」、そして「個人情報表示エリア」が、ラベル平面上に左から右側に順番に配置されているが、図1の場合と異なり、該「個人情報表示エリア」の右側に「山折り目」を挟んで「折り返しエリア」が設けられているのがわかる。図3(a)と図3(b)とを対応させてみると理解できるように、ミシン目の左側に「匿名化情報表示エリア」及び「二次元バーコード表示エリア」が配置され、その裏面は、全面が「糊あり範囲」であり、粘着剤が塗布されて容器上に当該ラベル部分を固着できることがわかる。図4(a)を参照すると、採血管に図3に例示された本発明の識別ラベルが貼り付けられた場合のその様子がわかるが、図3及び4に示された本例では、「個人情報表示エリア」は「折り返しエリア」の裏面と重ね合わせて接着されることが理解されよう（図4(a)～(c)も参照）。図1の例と同様に、ラベルの「個人情報表示エリア」は、ラベルの「匿名化情報表示エリア」及び「二次元バーコード表示エリア」に連なって同じラベル平面上に配置されていること、そして該「個人情報表示エリア」と該「二次元バーコード表示エリア」との境にミシン目が来ることもわかる。

【0028】該ミシン目の右側には、「個人情報表示エリア」が配置され、図4(c)～(e)を参照しても理解できるように、必要に応じて、ミシン目を利用して切り取り、「匿名化情報表示エリア」及び「二次元バーコード表示エリア」の着いている検体試料容器から分離できる。該切り離された「個人情報表示エリア」のラベル部分は、管理帳票に貼り付けておいて、外部検査機関から検査結果の報告があった場合など、当該匿名下に得られた結果と個人情報との対応関係を付けるために利用される。かくして、検体試料採取時には、「個人情報表示エリア」部分を容易に読み取ることができ、提供者が確かに対象とする者であることを容易に確認できるが、院外に当該検体試料を持ち出す場合には、「個人情報表示エリア」部分を取り去ることが簡単にでき、さらにその「個人情報表示エリア」部分を管理帳票に貼り付けておいて、正確なデータ管理を図ることが可能である。本発明の識別ラベルによれば、採血管などの比較的そのサイズに制限のあるものに適用できて、しかもプライバシー保護を簡単に且つ確実に図ることが可能である一方、バーコードを利用した正確で信頼がおける、さらに効率的な扱いを可能とする。本発明のラベルは、台紙から容易に剥がすことが可能なようにして、台紙の上に多数が印刷された形態（ラベル片）で提供されることができ、

こうした形態は、例えばプリンタ用ラベル用紙において市販されている製品にその例をみることができる。こうしたものでは、該台紙の表面側（ラベル側）には剥離層が形成され、当該ラベル片は該台紙上に貼設されており、その裏面側には粘着剤が付与された接着層が形成されており、各ラベル片は容易に剥がすことができるように切れ込み線により囲まれていてよい。

【0029】

【発明の効果】本発明に従えば、検体容器識別ラベル及びそのラベルを貼付した容器により、倫理上の問題に配慮することが簡単且つ確実に実現可能である。本発明のラベルは、検体試料用容器、例えば採血管に第一の領域である匿名化情報表示及び第二の領域であるバーコード認識部位を巻き付けて固着できることから、その容器の取扱いが便利に行うことが可能であり、さらに第三の領域である個人情報表示をそれを切り取って容器から分離せしめるまでは、管壁に貼り付けたり剥がしたり自在にできるようにすることが可能であり、そうした着脱可能とすることにより、当該個人情報表示部分を容器と一体にして取り扱うことが可能である。一方、必要に応じて、管壁から剥がすことにより、第一の領域である匿名化情報表示部を適宜参照して確認をとることも可能であり、採血管などの容器の狭い面積を有効に利用でき、確実な識別情報の確保及び利用が可能である。例えば、バーコードとして二次元バーコードを使用することが可能となり、さらにバーコード読み取りなどにおける誤動作も排除でき、信頼性のある管理を保証できる。

【0030】本発明のラベルにおいては、共通化した識別略号を使用することにより、検体試料と提供者個人との間の対応を安心して、さらに信頼性を持って行うことができる一方で、個人情報の秘匿性を担保することが簡単に且つ確実に図ることができ、プライバシー保護を図ることができる。また、本発明のラベルにおいては、効率的に狭い面積を有効に利用しており、コストの面でも優れている。本発明のラベル及びそれを貼付した検体容器、特に生体検査用試料、医療検査用試料を収容する容器を利用すると、プライバシー保護を図ることができる一方で、医療過誤を防ぐにも効果が期待できる。本発明は、前述の説明及び実施例に特に記載した以外も、実行できることは明かである。上述の教示に鑑みて、本発明の多くの改変及び変形が可能であり、従ってそれらも本件添付の請求の範囲の範囲内のものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係るプライバシー保護対応検体容器識別ラベルの一実施例を示す平面図である。(a)は、当該ラベルの裏面を表し、(b)は、当該ラベルの各種情報表示側（表面）の形態を示している。

【図2】 図1に例示された識別ラベルの一実施例を採血管に適用し、その貼り付けの様子、院内業務中での様子、さらには外部検査機関（院外）への持ち出しに至る